



# 第70期 中間報告書

2011年4月1日 ▶ 2011年9月30日



ロジン (松脂)

- P1 株主の皆様へ
- P2 中間連結決算ハイライト
- P3 中間連結財務諸表
- P5 トピックス
- P7 暮らしの中に活かされる  
製品・技術
- P9 会社概要
- P10 株式および株主の状況

**ハリマ化成株式会社**

証券コード：4410

平素は当社に対し格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2011年4月1日から同年9月30日までの第70期中間期の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当中間期における世界経済は、中国を中心とする新興国で景気が堅調に推移し、全体としては回復基調にありましたが、欧米での財政・金融問題の深刻化など景気の先行き不透明感は強まりました。

わが国の経済は、本年3月に発生した東日本大震災の影響による生産活動の低下や消費の冷え込みがあったものの、サプライチェーンの立て直しが進み、生産が回復するなど、景気は改善傾向が見られました。しかしながら、急激な円高の進行や、海外経済の減速による輸出環境の悪化など、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境下、当社グループの当中間期における連結業績につきましては、ローター社が連結子会社に加わり主に海外売上高が増加したことなどで、売上高は370億7千9百万円となり、前年同期に比べ170億2千9百万円(84.9%)の増収となりました。

利益面では、原価低減や経費削減等による収益改善を最重要課題として取り組みましたことや、ローター社の業績が寄与しました。

その結果、営業利益は23億9千5百万円で、前年同期に比べ12億3千7百万円(106.9%)の増益となり、経常利益は16億6千2百万円で、前年同期に比べ5億6百万円(43.8%)の増益、純利益は10億1千1百万円で、前年同期に比べ5億6千7百万円(128.0%)の増益となりました。

ローター社が連結子会社に加わりましたことで、海外



代表取締役社長 長谷川 吉弘

売上比率は前期末の22.7%から当中間期では55.5%に増加し、まさにグローバル企業として事業を展開することになりました。

今期の見通しにつきましては、世界経済では特に欧米での財政赤字拡大や失業率の高止まり、中国での景気過熱抑制の動きなど、不透明な状況が続くと予想されます。わが国経済においても、円高進行による輸出産業への影響が懸念されます。

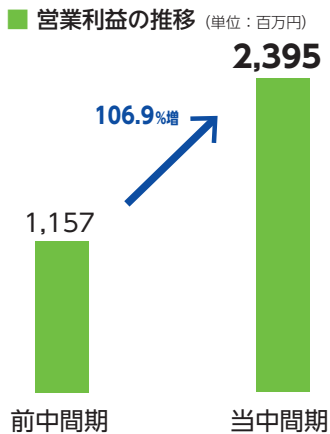
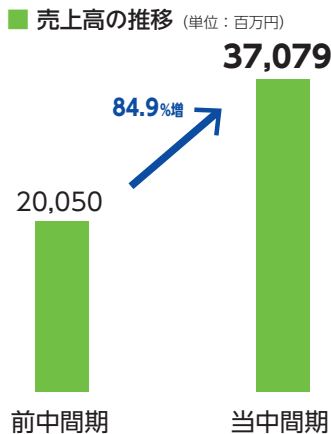
このような状況を踏まえ、当社グループは、海外でのロジン関連事業を担うローター社の運営を軌道に乗せ、樹脂化成品事業の発展に繋げるとともに、グループ各社の連携を深めグループ力を最大限に発揮することにより、パインケミカル分野での真の世界一をめざし、飛躍の年となるよう事業を推進いたします。

株主の皆様におかれましても、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

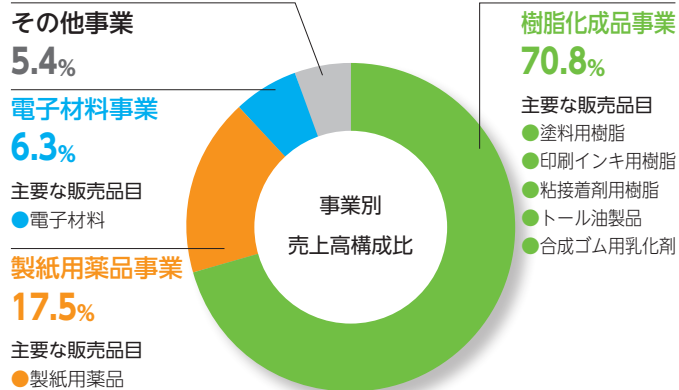
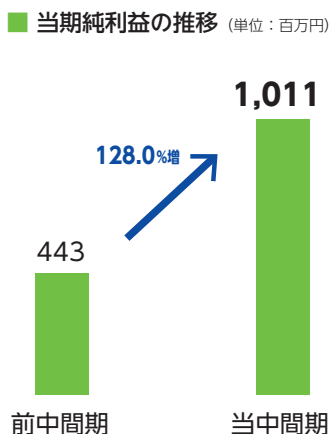
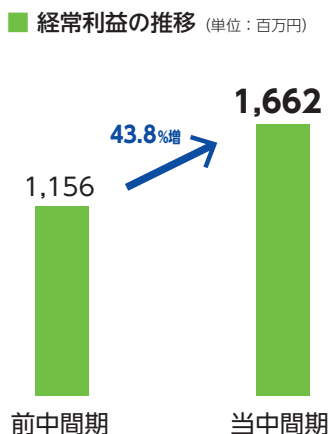
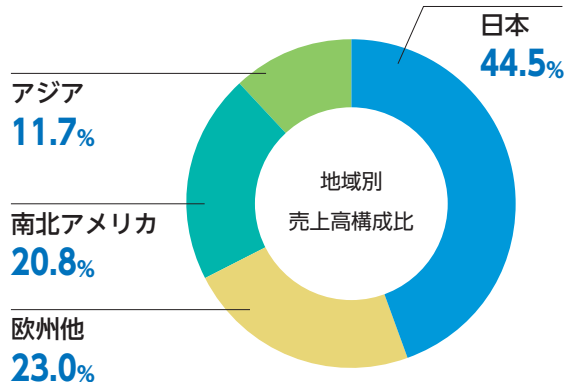
2011年12月

■ ローター社が連結子会社に加わり、海外売上高が増加

■ 原価の低減等収益改善効果とローター社の業績が寄与し増益



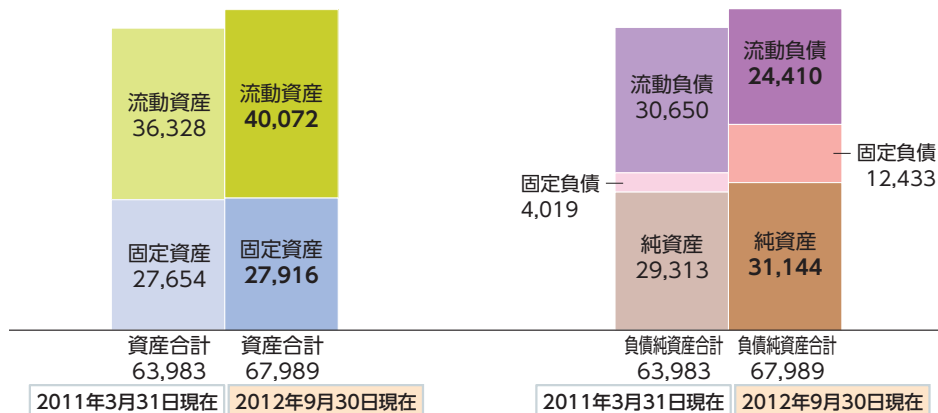
当中間期末では世界**11**か国にネットワークを展開しています。



事業別の概要は **P4** をご覧ください

## 中間連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)

科目	期別	前連結会計年度 (2011年3月31日現在)	当中間期 (2011年9月30日現在)	科目	期別	前連結会計年度 (2011年3月31日現在)	当中間期 (2011年9月30日現在)
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>		<b>36,328</b>	<b>40,072</b>	<b>流動負債</b>		<b>30,650</b>	<b>24,410</b>
現金及び預金		5,961	6,143	支払手形及び買掛金		8,787	8,680
受取手形及び売掛金		17,113	19,827	短期借入金		17,254	9,298
商品及び製品		4,594	4,972	1年以内返済予定の長期借入金		615	1,740
原材料及び貯蔵品		5,838	6,188	未払法人税等		411	791
その他		2,858	3,080	役員賞与引当金		66	49
貸倒引当金		△38	△140	その他		3,514	3,851
<b>固定資産</b>		<b>27,654</b>	<b>27,916</b>	<b>固定負債</b>		<b>4,019</b>	<b>12,433</b>
<b>有形固定資産</b>		<b>21,231</b>	<b>21,447</b>	長期借入金		555	8,902
土地		10,608	10,644	長期預り保証金		1,128	1,103
その他		10,622	10,803	退職給付引当金		772	823
<b>無形固定資産</b>		<b>1,137</b>	<b>1,157</b>	役員退職慰労引当金		418	416
<b>投資その他の資産</b>		<b>5,284</b>	<b>5,311</b>	資産除去債務		44	45
その他		5,298	5,324	その他		1,100	1,141
貸倒引当金		△13	△13	<b>負債合計</b>		<b>34,669</b>	<b>36,844</b>
<b>資産合計</b>		<b>63,983</b>	<b>67,989</b>	<b>純資産の部</b>			
				株主資本		28,962	29,766
				資本金		10,012	10,012
				資本剰余金		9,744	9,744
				利益剰余金		9,267	10,070
				自己株式		△61	△61
				その他の包括利益累計額		△983	△60
				その他有価証券評価差額金		182	145
				為替換算調整勘定		△1,165	△205
				少数株主持分		1,334	1,438
				<b>純資産合計</b>		<b>29,313</b>	<b>31,144</b>
				<b>負債純資産合計</b>		<b>63,983</b>	<b>67,989</b>



## 中間連結損益計算書の概要 (単位：百万円)

科目	期別	前中間期 (自2010年4月1日 至2010年9月30日)	当中間期 (自2011年4月1日 至2011年9月30日)
売上高		20,050	37,079
売上原価		15,349	29,358
売上総利益		4,701	7,721
販売費及び一般管理費		3,543	5,326
営業利益		1,157	2,395
営業外収益		197	175
受取利息		21	17
受取配当金		28	29
不動産賃貸料		65	66
その他		81	60
営業外費用		198	907
支払利息		94	242
支払手数料		14	213
為替差損		50	390
その他		39	62
経常利益		1,156	1,662
特別利益		16	—
特別損失		255	1
税金等調整前四半期純利益		916	1,661
法人税、住民税及び事業税		158	593
法人税等調整額		280	△100
少数株主損益調整前四半期純利益		476	1,168
少数株主利益		33	157
四半期純利益		443	1,011

## 主要3事業の概要

### 樹脂化成品事業

売上高 **26,234**百万円  前年同期比 **177.5%**増

経常利益 **2,228**百万円  前年同期比 **313.7%**増

- ローター社の連結子会社化による増収効果
- 国内塗料用樹脂および合成ゴム用乳化剤は概ね好調
- 国内印刷インキ用樹脂は震災等の影響により低調

### 製紙用薬品事業

売上高 **6,500**百万円  前年同期比 **3.6%**増

経常利益 **437**百万円  前年同期比 **42.4%**増

- 米国子会社が好調
- 国内の紙・板紙生産量は減少

### 電子材料事業

売上高 **2,353**百万円  前年同期比 **2.1%**減

経常利益 **49**百万円  前年同期比 **73.0%**減

- レアメタル等の原材料価格高騰により収益に影響

※上記主要3事業以外のその他事業は記載していません。  
 ※主要3事業には為替差損などの調整額は含まれておりません。

2011年

4月

## ローター社との技術交流会開催

ローター社の首脳や技術陣が日本を訪れ、富士工場、加古川製造所、ハリマエムアイディ株式会社プラント等の工場見学や、研究スタッフとの技術交流が行われ、当社グループのさらなる飛躍の第一歩となる重要な機会となりました。



## 次世代プリントドエレクトロニクス 技術研究組合に参画

新エネルギー・産業技術総合開発研究機構(NEDO)の受託事業を通じて、被膜トランジスタの生産技術開発、材料開発、評価技術開発に取り組み、次世代タッチパネルをはじめ、数多くの応用製品が生み出されることが期待されます。このプリントドエレクトロニクス技術を実現するため、日本国内のデバイス、プロセス、材料関連の技術を有する企業27社が参画し、異業種間の壁を越え、連携して技術開発を行っていきます。当社も材料メーカーとして設立メンバーに加わり、技術開発の一役を担っています。

5月

6月

## バイオマス発電で夏の電力不足に貢献

当社の主原料である粗トール油からロジンなどの天然化学製品を精留する際に得られる副産物をバイオマス燃料として有効活用し、加古川製造所で必要な蒸気と電力の全てを内製しました。また、今夏は電力供給不足に対応するためバイオマス発電設備の稼働日数を増やし、余剰電力を売電し地域の電力不足に貢献いたしました。

7月

## ローター社とのグローバル製造会議開催

「ローターグローバル製造会議」がハリマ化成の国内拠点で開催されました。今回は、ローター社の米国シカゴ本社他、北米、南米、欧州、アジア、オセアニアの各地域の製造部門を代表する11名が集結し、加古川製造所、富士工場、東京工場において、製造部門間の情報交換を図りました。

8月

9月



## ハリマ化成の環境への取り組み

# 地球温暖化防止への取り組み

地球温暖化問題を重要課題として認識し、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。

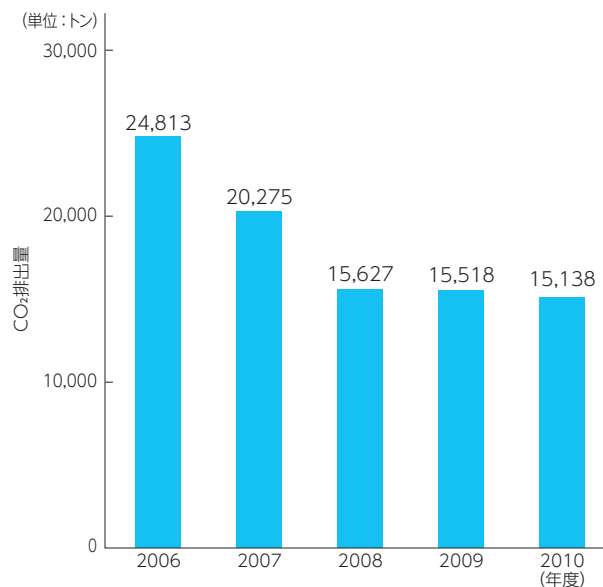
### CO<sub>2</sub>排出量削減の状況

当社は創業以来、粗トール油を精製した後の副産品（以下、バイオマス燃料）を燃料として利用しています。2005年度からバイオマス燃料の有効利用をさらに推し進めバイオマス発電を稼働させることで、2009年度からはバイオマス燃料が全エネルギー使用量の6割を超えています。

バイオマス燃料は、CO<sub>2</sub>排出量がゼロと認められていますので化石燃料使用の場合に比べてCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減したことになります。バイオマス発電設備から発生する蒸気と電力は、加古川製造所のエネルギー全てを賄い、余剰電力を新エネルギーとして電力会社に販売しています。その結果、従来の購入電力分と売電分に相当するCO<sub>2</sub>排出量を削減しています。2010年度のCO<sub>2</sub>排出量はバイオマス発電の稼働日数増加により、2009年度比2%削減できました。



### CO<sub>2</sub>排出量の推移



# 私たちの暮らしの中にハリマ化成の製品、技術が

ハリマ化成の製品は、暮らしに欠かすことの出来ないさまざまな製品の素材として使われています。



## 1 塗料用樹脂

カラフルな色で人々の目を楽しませる塗料。仕上がりの美しさはもちろん、環境にやさしい脱有機溶剤化を実現した高品質な塗料用樹脂をお届けしています。



## 2 印刷インキ用樹脂

環境にやさしく、印刷を美しく仕上げ、速乾性により印刷スピードをアップさせる印刷インキ用樹脂の製造で高度情報社会に貢献しています。



## 3 合成ゴム用乳化剤

自動車タイヤなどのSBR<sup>※1</sup>という合成ゴムの製造工程に欠かせない乳化剤。日本の自動車のタイヤの半数、2本に1本にはハリマ化成の製品が活かされています。



## 4 粘接着剤用樹脂

接着剤の粘着力をアップする粘着付与剤。環境にやさしく、ポリエチレンなどのプラスチックにも抜群の粘着性を発揮するロジン系粘着付与剤を提供しています。





# 活かされています。



## 5 製紙用薬品

インキのじみを防ぐサイズ剤、紙の強度を向上させる紙力増強剤、印刷適性を高めるコーティング剤など、幅広い種類の製紙用薬品を製造しています。



## 6 電子材料

電子材料の分野では“クリーン＆ファイン”をコンセプトに省資源、省エネルギー、自然環境との調和をめざした製品を開発しています。



## 7 アルミニウムろう付け材料

自動車に使用されている熱交換器はアルミニウムろう付けが必要です。ハリマ化成はプリコート法<sup>※2</sup>で新しいろう付け材料を開発しました。これにより熱交換器は軽量化され燃費が向上し、CO<sub>2</sub>の削減にも貢献しています。



※1 SBR: スチレン・ブタジエンゴム (Styrene-Butadiene Rubber) は代表的な合成ゴムであり、耐熱性、耐摩耗性、耐老化性、機械強度などに優れているため、自動車用タイヤ材として多く使用されています。

※2 プリコート法: 熱交換器を組み立てる際、あらかじめ接合部材にろう付け材料を塗布し、続いて加熱処理を施すことで接合する工法のこと。

## 会社概要

設立	1947年11月18日
資本金	100億1,295万円
本店	兵庫県加古川市野口町水足671番地の4
大阪本社	大阪府大阪市中央区今橋4丁目4番7号
東京本社	東京都中央区日本橋3丁目8番4号
研究所	中央研究所、筑波研究所
工場	加古川製造所、東京工場、富士工場、茨城工場、北海道工場、仙台工場、四国工場
営業所	東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、九州営業所、富士営業所、北海道営業所、仙台営業所、四国営業所
従業員数	417名 (連結1,635名)
グループ社数	37社
事業内容	樹脂化成品、製紙用薬品、電子材料等の製造販売

## 役員

代表取締役社長	長谷川 吉 弘
専務取締役	牧 野 信 夫
常務取締役	河 野 政 直
常務取締役	金 城 照 夫
取締役	岩 佐 哲
取締役	松 葉 頼 重
取締役	水 谷 安 裕
取締役	松 田 幸 信
取締役	清 野 光 則
取締役	土 田 史 明
取締役	谷 中 一 朗
常勤監査役	小 林 節 生
*監査役	道 上 達 也
*監査役	平 松 秀 則

\*印は、社外監査役であります。

## 重要な子会社の状況

会社名	出資比率	主要な事業内容	会社名	出資比率	主要な事業内容
ハリマ化成商事株式会社	100%	不動産管理等	南寧哈利瑪化工有限公司	95%	ロジンおよびロジン誘導体の製造販売
ハリマエムアイディ株式会社	75	トール油製品の製造販売	ハリマテックチェコ s.r.o.	100	電子材料の製造販売
ハリマドブラジルインダストリアキミカLTDA.	99.39	ロジンおよびロジン誘導体の製造販売	ハリマ化成ポリマー株式会社	100	印刷インキ用樹脂等の製造
HARIMA USA, Inc.	100	米国事業の統括	株式会社日本フィラーメタルズ	100	電子材料の製造販売
株式会社セブンリパー	100	業務用洗剤等の製造販売	信宜日紅樹脂化工有限公司	80	ロジンおよびロジン誘導体の製造販売
杭州杭化播磨造紙化学品有限公司	56.07	製紙用薬品の製造販売	信宜中林松香有限公司	81	ロジンおよびロジン誘導体の製造販売
杭州哈利瑪電材技術有限公司	85	電子材料の製造販売	ローターB.V. (Lawter B.V.)	90	ローター各社の統括
ハリマテックマレーシア Sdn.Bhd.	85	電子材料の製造販売			

## 株式および株主の状況 (2011年9月30日現在)

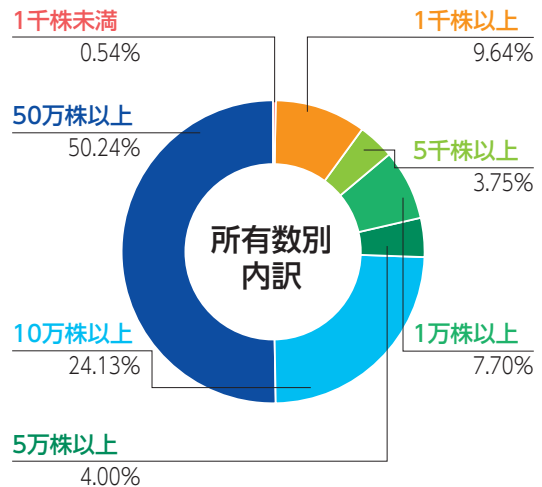
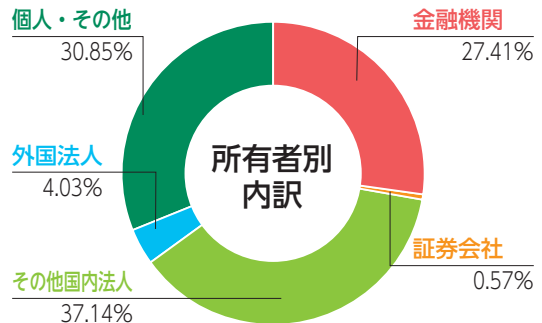
### 株式の状況

発行可能株式総数	59,500,000株
発行済株式の総数 (自己株式130,900株含む)	26,080,396株
株主数	2,679名
大株主 (上位10名)	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
長谷川興産株式会社	4,558	17.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,387	5.34
長谷川 吉弘	1,334	5.14
株式会社三井住友銀行	1,094	4.21
ハリマ化成共栄会	834	3.21
財団法人松籟科学技術振興財団	805	3.10
株式会社みなと銀行	692	2.66
有限会社松籟	687	2.64
京阪神興業株式会社	672	2.58
兵庫県信用農業協同組合連合会	521	2.01

- 注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式(130,900株)を減じた株式数(25,949,496株)を基準に算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

### 株式の分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 期末配当金 毎年3月31日

中間配当金 毎年9月30日

上場取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所  
(証券コード4410)

単元株式数 100株

電子公告により行います。  
(<http://www.harima.co.jp/>)

公告方法 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による  
ことができない場合は、日本経済新聞に掲載  
いたします。

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪府大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
☎ 0120-094-777 (通話料無料)

## 【ご注意】

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ハリマ化成株式会社

大阪本社 〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目4-7  
Tel. 06-6201-2461

東京本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-4  
Tel. 03-5205-3033



この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。  
また、印刷はアルカリ性現像廃液を出さず、インソロビアル  
ロールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用して  
います。

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。

使用されている用紙は、適切に管理された森林からの  
生産物です。適切に管理された森林とはForest  
Stewardship Council®（森林管理協議会）の規定  
に従い、独立した機関により認証された森林を指します。